

フッ化物洗口のやり方



1-1 机の上に準備



2 全員の準備を先生が確認



3 一斉にうがい（30 秒間）



1-2 低学年はボトルで先生が準備

この後、30 分間は飲食物をとってはいけない。



5 順番に教卓のごみ袋に廃棄



4 30 秒経ったら紙コップに吐き出す

学校でのフッ化物洗口で起きた事故

2001 長崎 コップを洗浄する薬とフッ素が反応 22人中14人が受診、点滴、2人が入院

2004 佐賀 児童が「いつもより濃い」と指摘 洗口液濃度が約2倍だった

2005 新潟 オスバン消毒液と洗口液を間違えて、6人受診、2人が胃洗浄

2015 熊本 児童が「ピリピリする」と訴え調査、洗口液濃度が2倍以上だった

大分 洗口液を常温で保管していたためカビが発生

2016 北海道 児童が吐き出した洗口液が、他の児童の目や顔にかかった

2017 秋田 アルコール消毒液を誤って洗口液として児童のコップに注ぎ、口に含んだ

大分 容器にカビが発生し洗口液に混入した 2市

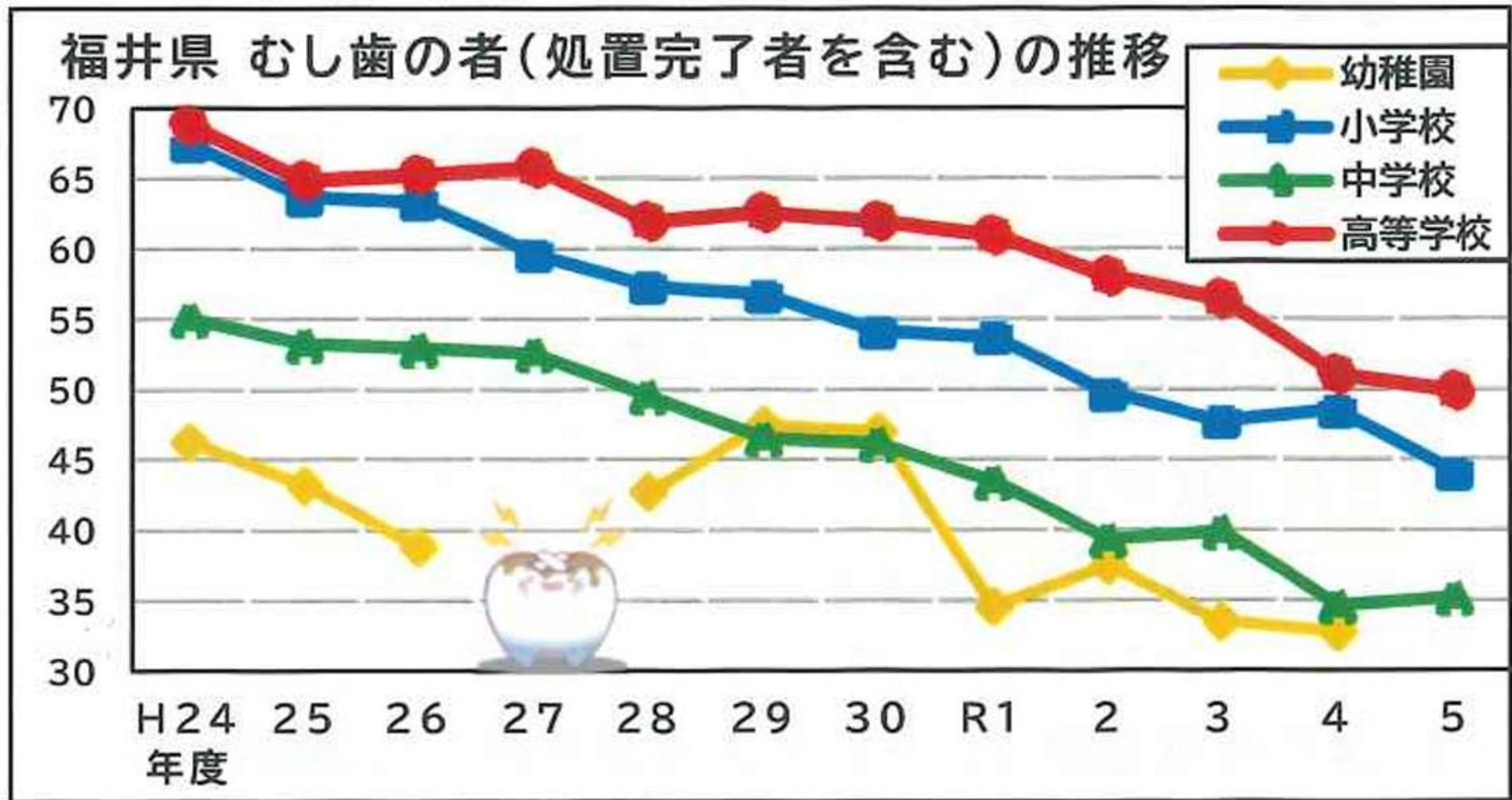
2020 鹿児島 家屋市の小学校でフッ化物洗口を通常の4倍濃度で実施。希釈間違いによる事故

※この他にも

- ・希望していない子に洗口させた
- ・服薬中の子が主治医から中止するように言われた
- ・子どもが洗口液の中に消しゴムのかすを入れた
- ・ . . . などの事案も起きています。

長崎の事故では、担任は保護者会で謝罪し、その後、原因追及が行われた。

福井県の虫歯罹患率の推移



(文科省学校保健統計調査(令和6年度)を基に作成)